

命を見つめ直し、結びつきのある地域社会へ。 地元新聞社と企業が結束したキャンペーンを展開。

新潟日報社を中心とした県民キャンペーン実行委員会は、2011年4月から9月まで、「いのちを話そう」県民キャンペーンを展開した。「命」をキーワードとして、人と人、心と心がつながる地域社会を作ることがその目標である。新聞紙面、ホームページ、学校での授業、ミュージカルと多彩なアプローチで、読者から多くの反響を得ている。

自殺率全国ワースト10の 汚名を返上する。

新潟県には不名誉な記録があった。13年連続で3万人を超える自殺者を出す日本だが、新潟県は自殺率で全国ワースト10の常連となっていた。新聞紙面にも、いじめ、家庭内暴力、そして孤独死と悲しい事件が並ぶようになっていた。人間関係が希薄になるとともに、人の命を軽視する傾向にあるのではないか。新潟日報社は社会の変容を

危惧していた。

そこで企画立案されたのが『いのちを話そう』という県民キャンペーンである。同社広告事業本部 広告部 部長代理の青木仁さんは、その狙いを次のように語る。

「単に記事として『自殺をやめよう』と呼びかけても、読まれなければ効果は期待できません。そこでこのキャンペーンではあえて広告として紙面展開を行うとともに、実践的な活動もあわせて、多くの企業や学校などをまきこむことを考えました」

こうして、長引く不況下の厳しい中、70社を超える企業が新潟日報社の働きかけに賛同し、県民キャンペーン実行委員会が組織された。

情報発信の中心となる新聞紙面では、まったく異なる立場で命と向き合う5人のエッセイストが選ばれ、それぞれの視点で命を語るというスタイルが採用された。ベテランの助産師、映画「おくりびと」の原案を書いた詩人、命を



エッセイストが小中学校で行った『いのちの授業』の様子

歌うシンガーソングライター、極寒のアラスカで活動する写真家、100才の医学博士。顔ぶれは多彩である。

掲載記事は広告らしく、インパクトのある写真とともにエッセイが綴られた。短いながらもどれも経験に基づいた説得力のある内容である。

読者からは「思い詰めていた気持ちがふと軽くなりました」というような実感のこもった便りも届いた。自分が生まれた時に母を亡くしたことで、60年以上罪悪感を抱えて生きてきたという方だった。

同社企画部 事業本部 企画事業部 部長代理の小林亜希子さんは「ホームページでも皆様の意見を募集しましたが、内容を見ると皆それぞれに生きることの悩みを抱えていて、この企画が心の琴線に触れたことを感じます。1年目としては成功です」と語る。

子どもたちの関心を高めた 『いのちの授業』。

一方、新聞を読むことの少ない子どもへのアプローチとして、エッセイスト3人が小中学校で授業を行う『いのちの授業』と、命をテーマにしたミュージカル『葉っぱのフレディーいのちの旅』が企画された。

講師の一人、写真家の松本紀生さんは5月25日に新潟市立本丸中学校で授業を行った。一年の半分をアラスカで過ごす松本さんの授業は、そのすばらしい写真とともに、クジラやクマの生態やエピソードを交えて語り、子どもたちを引き込んでいった。一晩中歩きながら、オーロラを撮影することもある。止まっていたのは凍死してしまうからだ。生命の危険と背中合わせで仕事をする松本さんに、女子生徒から質問が飛んだ。

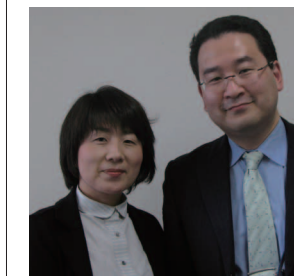
「怖くないのですか」

松本さんが答える。

「自分の好きなことをしているから怖いとは思わない」

その生徒は「今自分のしていること、その途中の努力を今より大切にし、日々の生活をもっと充実させたい」と授業後に感想を述べた。

担当者より



**AJOSCの助成で
充実した新聞紙面が
できました。**
新潟日報社 広告事業本部
広告部 部長代理
青木仁さん
新潟日報社 企画事業本部
企画事業部 部長代理
小林亜希子さん

難しいテーマを広告で展開するという新聞社としては新しい試みでもありました。紙面のデザインなどにも凝って、決して重苦しくならないように心がけましたが、予算もかかることですので、AJOSCの助成が大きな支えになっています。心より感謝申し上げます。

もうひとつの『葉っぱのフレディーいのちの旅』は、葉っぱの一生を通じて、命の重さや尊さを訴えるミュージカルだ。これまでも日本全国で上演されているが、このキャンペーンの一環として9月29日に新潟県民会館大ホールで開催され、1,200人の観客を集めた。

「秋には散ってしまう葉が、翌年の新芽の原動力となる。青木新門氏が紙面で語った『いのちのバトンタッチ』と同じテーマを、子どもたちにも伝えられたと思います」と小林さんは語る。

県民からの反響を受けて、キャンペーン実行委員会は2012年度も継続することを決めている。



ミュージカルのチラシ



5人のエッセイストがシリーズ連載した新聞紙面